

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成23年度第4回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成23年12月21日(土) 10:30~12:30

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、和田委員、田村委員、前野委員、中西委員 (Skype)

事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 新聞等の記事からの確認事項

- ・ 大学でのリテラシー教育が重要で、読み解き能力・自分で判断する力、教養としてリテラシーを考えると情報の性質・特質を分野共通でもつ必要があるのではないか。
- ・ 情報Aは操作が1/2で使えるようになる、Bが科学的、Cが情報社会に参画する態度、新学習指導要領にあわせてAがなくなりB、Cが増えている現状。
- ・ 情報の科学が高校選択で減ってくるのではないか、教える先生も不足しているのではないか。現在、入試センターでは数学の中で選択になっている、大学入試対策をする必要があるのではないか。情報を必須にする取組が出来ないか。大学が情報を入試にいれるのが少なく、学部のみなどの実績。10年先に指導要領がかわるときの提案はどうなるのか。

2. 情報リテラシー教育のガイドラインの検討について

- ・ 到達目標を4つに設定して、旧7項目を統合した。(括弧数字が旧7項目)
到達目標1：情報社会の光と影を認識し、情報倫理に配慮して判断・行動することができる。
(1) 収集した情報を情報の倫理に配慮して、加工・表現・発信できるようにする。
(3) 情報社会の光と影を理解させ、安全を維持するためのセキュリティの知識・技能を身に付けさせる。
(7) 情報の信頼性を選別・識別する知識と技能を習得させる。
到達目標2：目的に応じて、さまざまな処理にコンピュータを活用することができる。
(2) ソフトを使って文章表現・統計計算ができるようにする。
到達目標3：情報通信技術を活用して最適なコミュニケーションを行うことができる。
(6) 情報通信技術を活用して最適なコミュニケーションを行うための知識と技能を習得させる。
到達目標4：コンピュータと情報通信の仕組みと原理を理解し、さまざまな問題解決に活用することができる。
(4) コンピュータと情報通信の仕組みと原理を理解させる。
(5) 問題を効果的に解決する手法として、モデル化やシミュレーションに必要な知識と技能を習得させる。
- ・ 提示された案が議論され、主に下記の内容の変更を行い、概要を確定させ再度まとめることにした。
- ・ 到達目標1については、初歩的な内容をまとめた。
- ・ 「倫理」の言葉の受け止め方主観的なので、「主体的に自立・自律して」に変更した、
- ・ 到達度1は「信頼性」について、「正確性・信頼性を選別・識別することの重要性を理解している」に変更した。到達度3は「遵守すべき事柄、自己責任の範囲」は「社会の一員としての責任を理解して」にした。
- ・ 到達目標2は、「さまざまな問題解決に情報通信技術を活用することができる」にして詳細を再度整理す

ることとしたが、以下の内容に変更をした。

- ・ 到達度1は①与えられた課題の目標と制約条件を分析させる。②目標や条件に従って、問題解決のプロセスを考察させ、最適な方法を選択させる。にした。到達度2は「表現」を削除して、①学習者の習熟度に応じて計算・表作成・データベース・グラフ等を適切に扱う技能を指導し、実践的な技能を身に付けさせる。②自己の問題解決の目的に応じて、各種ソフトを実践的に使いこなす訓練をさせる。にした。到達度3「受け手の状況など」は「発信・伝達的手段を適切に選択し、相手の状況などを配慮」として、到達度2から文書や文章表現の内容を移行した。
- ・ 到達目標3は自らが利用する考えでまとめた。特にメディア、情報サービスとしたが括弧説明なので削除した。受け手と送り手を分けて整理したり、特性の理解と最適な選択の到達度1, 2についてはまとめるかを再度整理することにした。
- ・ 到達目標4では、情報通信技術ではなく「コンピュータと情報通信」としたがここではそのままの表現を使うことにした。到達度は当初5つに分けていたが3つに集約させた。到達度2では情報システムとしての視点で「日常における役割」は「仕組み」「社会における影響」も追加することにした。括弧の具体システム記述は「など」を入れ残すことにした。

3. 今後のスケジュール

- ・ 次回は1月24日（火）13時から実施を予定。
- ・ 今回の議論を踏まえて再度整理してたものを検討することとした。

以上